

# 富奥のあけぼの

富奥は手取川扇状地の中央、扇中央部に位置します。

扇状地とは、山から川の流れによって運ばれた土砂が平野に高く堆積<sup>たいせき</sup>したことにより、山から平野に向かって扇形に広がって形成された地形のことです。

富奥の縄文・弥生時代は、新庄<sup>しんじょう</sup>や上林<sup>かんばやし</sup>・末松<sup>すえまつ</sup>地区に短期的・小規模な集落があったほか、栗田<sup>あわだ</sup>遺跡から打製石斧<sup>だせいせきふ</sup>の製作地の跡が発見されています。しかし長期的・大規模な集落跡は見つかっておらず、この時代の人々にとっては、厳しい生活環境だったようです。



堆積した石礫（栗田遺跡）